

持続可能な産学連携モデル（M-CON）の構築と実践

北海道室蘭工業高等学校 学級数 11 （校長 鈴木 康礼）

□ 実践の概要

本校は企業や上級学校、自治体などから構成される産学連携（通称：M-CON）を通じ、地域の産業界との連携を積極的に推進している。企業実習や専門家による出前授業を実施し、生徒が実社会に触れながら学べる機会を提供している。これらの取組により、地域産業への理解を深め、学びの質の向上を図っている。

1 実践の目的

本校は令和 6 年度に持続可能な産学連携モデルを組織し、地元企業・上級学校・自治体・保護者・関係団体等と連携してキャリア教育の支援と共有、ならびにデジタル人材の育成を進めている。これらの活動を通して、『ひとづくり』と『まちづくり』に寄与する産学連携事業の展開を目的としている。

2 実践内容

(1) 実施計画

本校の連携事業は、学科向けの取組は各学科が中心となって企画・運営を担っており、学年・全校対象の取組は進路指導部が主体となって実施し、生徒の進路形成に必要な学びの充実を組織的に図っている。

(2) 取組の具体

① 企業実習

建築科・環境土木科において、室蘭市建設業協会、登別建設協会、伊達市建設業協会と連携し、6月から7月にかけて4週間の企業実習を実施した。実習では、VRを用いた安全教育に加え、住宅設計と施工シミュレーション、玄関タイルの施工体験など、専門的かつ実践的な学習に取り組んだ。生徒は、実際の現場を想定した作業を体験することで職業理解を深め、将来の進路選択に向けて貴重な知識と技能を身に付けることができた。



【企業実習】

② 洋上風力発電出前授業

10月に、今年度は学科を問わず、2学年全生徒を対象として、洋上風力発電に関する出前授業を実施した。この授業は関西電力との連携協定に基づき、令和6年度から継続して行っているものである。

なお、電気科については現場見学も併せて行った。



【洋上風力発電出前授業】

③ 現場見学

各学科においては、1年生から現場見学を積極的に行い職業観の育成に努めている。電子機械科1年生においては、7月に市内の企業と現場を見学した。



【現場見学】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

実習や授業の実施後における生徒のアンケートや、企業からの評価を取り入れている。アンケート結果から、所属学科の関連業種に就職を考えている生徒が増加している。また、所属学科への興味関心も向上している結果が得られ、本校の取組における一定の効果があることが認められた。

(4) 改善に向けた取組

今年度の取組については、次年度に向けて工夫・改善を検討している。企業実習については、次年度から本格実施となるため、今年度の反省・評価を学校と連携企業が共有し、持続可能な企業実習の構築を推進していく。

3 実践のポイント

- ・ 体験的な取組を実践し、地元企業とのつながりを深め、地元へ就職したい生徒の割合及び就職先の定着率を向上すること。
- ・ 生徒に身に付けさせたい資質・能力をはじめ、職業観・就労観の育成など、学校として育成を目指す生徒の姿を明確にしたうえで、それに合った連携事業を実施している。